

水色の天使^{天国へのカバン編}

真夜中、彼の枕もとに水色の天使が舞い降りて彼に言いました。

「あなたはもう死んでいますよ、さあ行きましょう！」

彼は突然のことに驚き、動揺しました。「えっ？何？今すぐ？」

天使「そうです。今すぐです。このカバンに入るだけの物は天国に持って行けるので大切なものを詰めてください。あと5分です。」

彼「えっ！訳わかんないけど・・・5分、5分・・・天国では何が要るのかな??・・・とりあえずお金は要らないし、携帯も・・・寒いと辛いので上着と靴下は入れといて・・・でも現地のこと知らないと用意できんなあ〜」

彼「あの〜天使さん！天国の気温は・・・あつ居ない。」

彼「やっぱり上着はやめて ハハッハッ だつて身体ないもん！」

えーとっ えーと・・・時間ないぞ・・・落ち着け 落ち着け！

大切なものって言ってたよな、そうだ家族写真だ!・・・どの写真にしようかな・・・うわあー涙出てきたあ・・・何で俺は死んだんや・・・」

天使「さあ時間ですよ！私の手に捕まって！」

彼「えっ！もう、うわあっー!!とりあえず1枚は写真を・・・」

ビリっ!「ちょっと破れたかな・・・」

天使「さあ早く!!」 ピカッ!うわあー眩しい!!

彼「ここが天国か・・・結局持ってきたのは靴下と家族の写真1枚だけ。

何てことだ!その写真も私ばかり大きく写り、妻と娘が一緒だが息子は写っていないなんて・・・しかも端が破れてるし・・・」

天使「どうしたんですか?浮かない様子ですね?」

彼「もう少し時間があれば冷静に考えてこのカバンに・・・」

天使「そうですか。もしもう少し時間があれば、あなたはここに何を持ってきたというのですか?」

彼「・・・・・・・・」

彼は言葉を失った。



作：鳥越介順

お地蔵さん だよ

Vol. 113

2013年8月



毎いっしょに保険を選びましょうオフィス鳥越
鳥越介順

指を動かかし 限界に挑む人々

世界陸上を見ていたとき幅とびの助走を始めようとしている選手が両手の指先を振動させ、そのすごい勢いで親指と他の指をこすり→スタートしました。彼女がその時何をしたのか私には分かりました。限界に挑もうとスイッチを入れたのでした。医学的にも指先を刺激すると脳が活性化すること。スポーツ選手には無意識に同じことをする人も多いようです。また、多くの人がどうしてもアイデアが出ないときや、すぐ集中して考えたい時に指先が無意識に変に動いていることがあります。電話をしながら指を動かして続ける人も見かけます。自分をリラックスさせて、限界の脳力を引き出すスイッチが指先にあるようです。

たおは 再起動!!



こわ〜い話です!!
スマートフォンでショートメール(SMS)を送信したと思っていたら、実際は未送信だった。10日間で20件ぐらい。ご指摘いただき気づいてあわてて改善策をネットで調べると「電源を落として再起動すると直るケースが多い」とのこと。すぐに再起動してみると未送信だった20件ぐらいのメールが一斉に送信されてしまった。時期外れのメールが一斉に・・・これもまた恐い話です。あわてて今ごろになって届いた変なメールへのお詫びに対応して大変でした。どうやらスマホはパソコンと同じなので1日1回は電源を落としてリセットすることが大切のようです。♡